

# 第154話 最上三十三観音巡拝 その2 中山町 歴史散策

最上三十三観音の参詣順路としては、天童山元の鈴立山若松寺を一番札所に、山形、上山、山辺、岡、寒河江、西川町睦合、谷地、東根、楯岡、尾花沢、大石田、最上町富沢、鮭川村庭月を巡り、打ち納めは最上町向天徳寺となっています。寺院の数は、山形界限8寺、尾花沢界限6寺、大石田4寺となっています。3度の参拝で99か寺、切りが悪いと、もう1寺を番外に設定した順路が多いのも、江戸期巡拝の特徴となっています。最上三十三観音巡拝では、最上町の天徳寺が番外寺となっています。

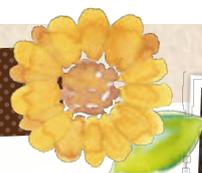
参詣の出発点は、天童山元の若松寺となっています。この寺は村山郡のほぼ中央にあつて、立石寺建立以前に建てられ、規模、寺領域の大きさは村山随一であったことがその理由のように思われます。また、結番の庭月と上山高松観音とのほぼ中央にあつて、南北からの参詣にも宿泊、参詣のしやすい位置にあつたからだとも考えられます。

これら観音を祀る寺々は、天台宗14か寺、曹洞宗10か寺、真言宗8か寺、浄土真宗1か寺、時宗1か寺と5つの宗派に分かれますが、21番尾花沢五十沢観音は、慶長19年(1614年)金森石見守の建立で、武士を捨てて僧籍に入つたために、自身の浄土真宗の宗旨を変えなかつたといわれています。また、大石田の西光寺は時宗ですが、芭蕉の「おくのほそ道紀行」とも関わりが深く、浅草寺仁王門の仁王像を模した彫刻像も有名です。

【用語の説明】  
 金森石見守：加賀の国の大名。金森家の当時の領主金森石見守が、戦いに敗れ、家臣を従えて加賀の国から出羽の国に逃れてきました。五十沢に住みつきましたが、世の中を悲観し、持ってきた観音像を祀りお勤めしていました。慶長19年、東本願寺に石見守が弟子入りして金森山喜覚寺を開山し、金森山の中腹にお堂を建てて観音像を安置し、村人の参詣を認めたことが尾花沢五十沢観音の起源といわれている。

※引用 中山町史 中巻 第10章第1節 庶民と信仰

## 私たち地域おこし協力隊です！ No.21



仏蔵の前の煉瓦敷

あけましておめでとうございます。

令和も2年目、協力隊左治木・前田の2人は協力隊最終年になる3年目もいよいよ近くなりました。

柏倉家では3月にひなまつり、4月からいよいよ一般公開も控えていて、大きな年になりそうだ…という予感がひしひしとしております。

柏倉家は建物や部屋の細かいところまでいろいろな職人の技やこだわりが詰まっているのですが、なかなか見学にいらっしゃる方の滞在時間内では、説明しきれないところがあるのが正直なところです(本当に細かいところまで説明すると、おそらく1日がかかりになってしまうので…)。今回少しだけ、前田が個人的に気に入っている所の一つご紹介させていただきます。私が日頃特に「可愛い~！」と思っているところ。それは仏蔵の前の煉瓦敷です！

とても乙女心をくすぐるレトロ可愛い柄です。インスタ映えもバッチリですね。

この煉瓦は現在もあるINAXという会社の前身の伊奈製陶という会社で、幕末の頃に作られたと聞いています。幕末の頃に作られた煉瓦が今でもこんなに綺麗に残っているということにとてもロマンを感じます。学術的なところはわからないのですが、個人的にwebで調べた範囲では、どうやらこの柄の煉瓦は東京など色々なところにあるのですが、基本的にお寺などの宗教施設で多く使われていたようです。それを読んで、この煉瓦を仏蔵の前に持ってきた方のセンスに感動しました。

モノそのものの魅力と歴史的背景、これを作った方の気持ちや視点を合わせて考えると、たまらない気持ちになるところが、柏倉家にはとてもたくさんあります。

柏倉家にいらっしゃる際はぜひ探してみてください！

(そしてこの煉瓦について詳しいことが分かる方はこっそり教えてください！)



とても可愛い柄です

●協力隊への問い合わせ先●

メール：nakayamanonaka@gmail.com 事務所：中央公民館2階